

【全学部共通問題】

3 次の文章は、南アメリカ大陸の4つの国について述べたものである。よく読んであとの問いに答えよ。

- A. この国は南北に長い国土を持ち、多様な気候を有する。北部は海岸砂漠の（ 1 ）砂漠がみられ、付近の塩地はかつて世界的な硝石の産地であったが、現在は電気自動車のバッテリー用電池などとして需要が増加している（ x ）の世界有数の産地へと変化した。また銅の産出量が世界第1位であり、この国の主な輸出品となっている。中部の首都周辺は温帯気候に属し、12～2月に乾季となるため（ 2 ）農業が行われ、ぶどうやワインの輸出も多い。南部は寒帯気候で沿岸には氷河地形もみられ、この地形を利用した養殖業も盛んである。
- B. 南アメリカ最高峰の山が位置するこの国は、ラプラタ川沿いの平野の東側に湿潤パンパが、西の内陸側に乾燥パンパが広がる。湿潤パンパでは、（ 3 ）と呼ばれる大土地所有制のもとで行われる混合農業が盛んで、栄養価の高いマメ科の飼料作物である（ 4 ）などが栽培されるとともに、肉牛の放牧が行われている。牛肉の生産は、19世紀の冷凍船の就航によって大きく発展した。一方、乾燥パンパから南部の寒冷で乾燥した高原の（ 5 ）地方では、羊の放牧が盛んで、近年は石油や天然ガスも産出している。
- C. この国はカリブ海に面し、世界最大の原油埋蔵量を誇る。ギアナ高地を上流に持つ（ 6 ）川流域と、北西部のマラカイボ湖周辺でも採掘が行われており、OPECにも結成当時から参加している。自国の資源を自国で管理し経済発展につなげようという（ 7 ）の考えが20世紀中頃から世界的に広がり、この国でも1976年に国営企業が設立され、石油資源が国有化された。近年はリーマンショックなどによる原油価格の急落や国内の大規模停電の影響に加え、国内政治の混乱により原油の生産量が急減し、経済に大きな打撃を与えている。
- D. この国はA～Dの国の中で唯一公用語が異なる。プランテーションによるさとうきびの栽培から始まり、その後この国の最大都市である（ 8 ）の周辺が世界有数のコーヒー豆の産地となり、モノカルチャー経済が形成された。現在は作物も多角化し、国土中央部のカンボセラードでは（ y ）の生産が急増し、2018年にはアメリカ合衆国に迫る世界第2位の生産をあげている。また、鉄鉱石やボーキサイト、すずなども豊富であり、さらに南東部の（ z ）州沖合で油田やガス田が発見され、原油の輸出も可能になった。

問1 文中の空欄1～8に該当する語をそれぞれ解答欄に記入せよ。

問2 文中の空欄x・y・zに該当する語を下記の語群からそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄に記入せよ。

- | | | | |
|--------------|----------|-------------|----------|
| x (イ. 鉛 | ロ. ニッケル | ハ. マンガン | ニ. リチウム) |
| y (イ. さとうきび | ロ. 大豆 | ハ. とうもろこし | ニ. 綿花) |
| z (イ. サルヴァドル | ロ. サンルイス | ハ. リオデジャネイロ | ニ. レシフェ) |